



星城 Seijoh Art Museum

美術館

vol. 4

創立者 石田鏞徳先生 生家
牧野秀一(院展)作

日本画特集

日本画とは、明治以後にヨーロッパから入ってきた西洋画に対し、わが国在来の技法・様式による絵画で、墨や岩絵の具を主とし、若干の有機色料を併せ用い、絹・紙などの上に毛筆で描いたものです。遠近法はあまり取り入れず、西洋画としての油絵・水彩画・パステル画・鉛筆画・ペン画・銅板画とは区別されているものです。

今回は日本画特集として、創立者と古くから親交の深かった方々、本校の旧職員の作品を集めました。これらの作品から、その繊細なタッチと郷愁あふれる共感を味わっていただければ幸いです。



鈴木喜家 作

「月照雪峰」

内容
この作品は、上高地へ行き、月明かりで穂高連峰がほんのり輝きをかもしだす風景に出会い、魅了されて描いたもの。これからも私を魅了する自然との「出会い」を求めて、自ら自然の風景に足を運びたい。



鈴木喜家 作

「雪景」

鈴木喜家
白土会会員。石田財団芸術奨励賞、名古屋芸術奨励賞など多数受賞。母校名古屋造形芸術大学教授。



田中宏明 作

「雷鳥」

田中宏明
国宝模写制作に十五年間従事。現在はグループ展などで作品を発表し、この作品は、白馬で偶然に出会った雷鳥に感動し、そして、大自然の中で力強く生きる姿を描きたいと思い、制作に取り組んだ。



千国朝子 作

「秋の桜」

千国朝子
日府展奨励賞。各種放送テレビ賞受賞、重細亜展入選。「秋の桜」は、第二十七回日府展出展。



牧野秀一 作

「庭」

牧野秀一(一九九〇)
第三十七回院展初入選。以後、入選十回、春展入選四回、中北部美術展審査員、中部美術展賞三回。

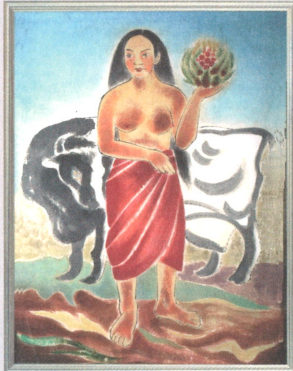


大河内久男 作

「森」

内容
滋賀県湖東地方で緑が濃くはじめた水田にかこまれた森を描いた作品。

大河内久男(一九六〇)
第七回新制作展日本画部初入選。以後、創画会に発展し、一九九八年まで出展。



伊藤正義 作「大陸の印象」

伊藤正義(一九三二～一九八二)
名古屋総合芸術展等出展。



大河内久男 作

「'89沖島の橋」

内容
もと、狼が島と呼ばれていた東幡豆の沖島は、古くから船の守り神の弁財天を祀る島。大きなタブノキ(イヌクス)の下に椿の原生林がある。



河本 正 作

「雲(ショウ、こさめ)」

河本 正(一九三二)創日展顧問
日府展副理事長歴任。青龍展入選後、日府展十五回展より審査員、当地のリーダーとして活躍。日府賞。三鈴賞受賞。以後、創日会代表。



白井久義 作

「道」

白井久義
日府展日春賞受賞。奨励賞受賞。石田財団芸術奨励賞受賞。名古屋芸術大学美術学部絵画科日本画コース教授。

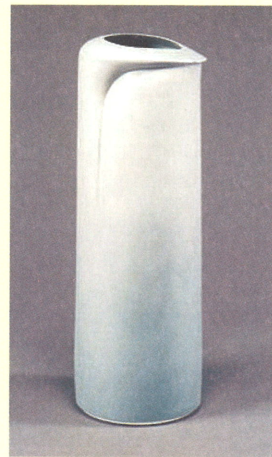


山内一生 作「富士」



山内一生 作「富嶽」

山内一生(一九二九)紙工芸作家・日展評議員
手漉き和紙作家の重要無形文化財保持者
紺授褒章受章、愛知県文化功労賞、日展・
内閣総理大臣賞を始め、数々の賞を受賞。



待田和宏 作
「撓屈 遼II」

内容は、はるか遠い過去から現在、未来へと万物は流転し奏で続けている中太古の色(饒玉||じょうぎよく)に魅せられ追いつめられている。(平成二十一年度の作品は「日展特選」)

内容



久恒俊治 作
友禅夢樹六曲屏風「早蕨の歌」

内容は、花鳥風月の絵模様を描いた加賀友禅は糸目という防染糊が命。模様の輪郭が白い線になり、色のにじみを止め、繊細な模様を描くことができる。糸目の技術を利用し木に直接友禅模様を染め上げた作品。

内容

■ 東山学園理事鄭允基先生寄贈



〒470-1161 豊明市栄町新左山20
Tel:(0562)97-3111 Fax:(0562)97-2015
URL : <http://www.n-ishida.ac.jp/>

星城美術館
Seijoh Art Museum
＜星城高等学校内＞

学校法人名古屋石田学園
星城大学・大学院 / 星城高等学校 / 星城中学校 / 星の城幼稚園
星城大学リハビリテーション学院 / 名英図書出版協会
協力 星城高等学校同窓会 星城懇話会